

最前线

医療

なかに4~5個の小さな穴を開け、そこから腹腔を開腹する代わりに、おなじみの前立腺がん治療です。

内田豊昭教授によると、この治療法は、前立腺がんの治療成績を改善するため、開腹による全摘出術とほぼ同等です。合併症はより少なくなるっています。

繰り返しが可能

高密度焦点式超音波療法

法の治療成績が報告されています。(11年10月、国際泌尿器科学会)

対象は、術後2年以上経過した789例(平均67歳)です。

前立腺がんの治療成績

は血液検査でPSA(がんがあると値が上昇する

前立腺特異抗原)値を測

つて判定します。手術後のPSA値の最低値+1

ミリリットルノック以上の上昇がない場合が有効で、治ったとされます。

この有効の割合が生化

学的非再発生存率(以下、有効率)です。

*超音波療法の機器

世代別・有効率(術後5年)1・2世代機器(99%)

(06年)53%、3世代機器(05~09年)61%、4世代機器(07~11年)82%

%。機器の改良で有効率

が高くなつた。

*現在の4世代機器に

ついて、再発・転移リスク(危険別の有効率(術後4年)低リスク群85%、中リスク群82%、高リスク群77%)。一方、術後合併症は、尿道狭窄・精巣上体炎(副腎丸炎)

など。

報告者の内田教授はい

ます。「治療成績は、開腹あるいは腹腔鏡によ

る全摘出術とほぼ同等で

あります。合併症はより少なくなるっています」

治療数は2012年1月まで1207人に。

強力超音波で負担軽減

早期前立腺がん 切らずに治す



検査用超音波の数千倍という強力な超音波によって前立腺を加熱する高密度焦点式超音波療法。その治療領域が映し出される画像を見ながら調節する内田豊昭教授。「問題は健康保険適用外のため自費診療(治療費112万円)

になること」「標準的な全摘出術は150万~160万円、放射線治療は200万円ほど(保険適用のため、本人は3割か1割負担で20万~50万円の支払い)。超音波による治療費はこれまでの半分程度で済んでいます」

手術の様子は

高密度焦点式超音波療法とはどんな治療か。

東海大学付属八王子病院手術室を訪ねると。

男性患者は60代。背中からの腰椎麻酔で下半身の麻酔後、あおむけに。少しの機器が取り付けられました。

執刀医はモニター画像を監視しつきどき装置を操作するだけ。

開発者の内田教授はいいます。「初めて前立腺がんに試みた1999年以来、機器の改良を重ね、現在は4世代目です」

男性患者に取り付けられている機器とは、肛門から直腸に挿入されているプローブ(超音波を照射する探触子)。最大直径3.2ミリです。

プローブからは強力な超音波が照射され、前立腺に焦点を結びます。焦点を結んだ領域は80~98.6度に加熱され、がんが凝固・死滅。

焦点からはずれた部位は温度上昇が抑えられ、周囲の組織を傷つけません。5ミリ離れても50度前後に低下します。

1回の照射は3秒間、焦点領域は深さ3ミリ、幅3ミリ、長さ12ミリ。3秒間休んで、次の領域(合計300~2000カ所)へと進んでいきます。

コンピューター制御で自動的に移動し、前立腺全体を照射します。

モニター画面に映っていたのは、前立腺の超音波画像とその周囲の血流、焦点領域の温度変化などでした。

執刀医が機器を調節していたのは、前立腺がんの部分を正確に適切な温度で照射できるようにするために

いたのです。「照射法の工夫もあり、手術時間は第1世代機器の約6分の1、約1時間に短縮できています。当日入院・当日退院の日帰り治療から、最長でも3泊4日です」

男だけのがんといえばこれ。前立腺がんです。急増中であり、油断できない。幸いには早く発見したら、さまざまな治療法があり、選べること。その一つが、おなかをからず、穴も開けずに治す「高密度焦点式超音波療法」です。

上野敏行記者

鏡を入れ、全摘出する腹腔鏡治療があります。また、放射線治療では、がん部分のみに照射するよう工夫したり、放射線を密封した針を前立腺の中に埋め込んだり。

「今は治れば良いだけ

ではないのです。患者さんの生活の質を低下させない、より優しい治療法が開発されています」

が最も優先されるのはがんの進み具合です。最終的には、がんの悪性が開発されています」

度、個々の患者さんの年齢、健康状態、家族の受け入れ態勢などを総合的に考え、それぞれの治療法の長所と欠点をてんびんにかけて決めます」

いま注目されているのが、強力な超音波を用いて治療する「高密度焦点式超音波療法」です。

「体を傷つけずに治療

するので患者さんの負担が少ないので、実施できます。私の父

親が前立腺がんになつた

らこれまで、と思います」